

令和 6 年度第 3 回おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会 会議録	
日時	令和 6 年 10 月 24 日（木）14 時～15 時 30 分
場所	阪南市防災コミュニティセンター（阪南まもる館）
出席者 （敬称略）	委員 久(委員長・近畿大学)、下村(副委員長・大阪公立大学)、奥野(商工会)、小森(南海電鉄)、小嶺（関西エアポート）、佐藤(市民)、玉井（池田泉州銀行）、根無(市民)、岡野（大阪観光局）、松端(武庫川女子大学) 【オンライン】矢田(大阪府) 【欠席】澤田(連合大阪)、武石（ジェイコムウエスト）、富岡(自治会連合)、和田（大阪府） 成長戦略室：藤原、中出、太田、人見 支援事業者（有限責任監査法人トーマツ）：松本、辻村、増田、光定
傍聴	2 名
議事項目	① 開会 ② 議事 （１）人口ビジョンについて （２）将来あるべき姿・戦略の骨格について （３）意見交換 （４）その他 ③ 閉会
会議資料	① 次第 ② 名簿 ③ 資料 1 人口ビジョン（初案） ④ 資料 2 将来あるべき姿・戦略の骨格（初案） ⑤ 参考 1 フォーカスヒアリング（速報版） ⑥ 配席表 ⑦ 資料 1 差し替え（６ページの人口動態の女性のところのデータが消えていたため） ⑧ 参考 2 人口動態（阪南市への年齢別・性別の転出入元自治体）（2023 年） ⑨ 参考 3 現行総合戦略について ⑩ 第 2 回創生委員会の会議録

議事内容

1. 開会

事務局	定刻になりましたので、おもいやりあふれるまち阪南 まち・ひと・しごと創生委員会を始めさせていただきます。 皆様方におかれましては、ご多忙のところ、本委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。 本日の出席委員は、委員総数 15 名に対し、11 名となっておりますので、おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会条例第 6 条第 2 項の規定により、本日の会議が成立しておりますことをご報告いたします。 （なお、連合大阪大阪南地域協議会の澤田委員、株式会社ジェイコムウエストりんくう局の武石委員、自治会連合会の富岡委員及び大阪府スマートシティ戦略部戦略推進室地域戦略推進課の和田委員は所要のため欠席の旨、大阪府企画室推進課の矢田委員は WEB 参加の旨をあらかじめご連絡を頂いておりますことを併せてご報告申し上げます。） 本日の傍聴者は、2 名です。 次に委員の変更についてお知らせします。株式会社池田泉州銀行様について「濱口」様から「玉井」様に、委員が変更となっています。よろしくお願いいたします。 本日の進行につきましては、ご配付させていただいております、会議次第に基づき、進めさせていただきます。
-----	---

2. 議事

事務局	次に、資料のご確認をお願いいたします。 事前に配布していました ①次第 ②名簿 ③資料1 人口ビジョン（初案） ④資料2 将来のあるべき姿・戦略の骨格（初案） ⑤参考資料1 フォーカスヒアリング（速報版） また、本日の配布資料として、 ⑥配席表 ⑦資料1 差し替え（6ページの人口動態の女性のところのデータが消えていたため） ⑨ 参考資料2 人口動態（阪南市への年齢別・性別の転出入元自治体）（2023年） ⑨参考資料3 現行総合戦略について ⑩第2回創生委員会の会議録 です。皆様、お手元にございますでしょうか。 なお、参考資料2の人口動態（阪南市への年齢別・性別の転出入元自治体）（2023年）については、取扱注意の資料となりますので、委員会後に回収させていただきます。 それでは、以後の進行につきましては委員長をお願いしたいと存じます。久委員長、よろしくお願いいたします。
-----	---

(1) 人口動態等の分析について

委員長	それでは、議事次第に基づき、進めさせていただきます。 次第の2. 議事案件、「(1) 人口ビジョンについて」を事務局から説明をお願いします。
事務局	それでは人口ビジョンの初案よりご説明いたします。 3ページからの人口動態については、前回の委員会で説明いたしましたが、10ページの阪南市の転出入の自治体間の状況については、前回の委員会の意見を踏まえ、追加資料として参考資料2にまとめています。年代別の詳細な情報は、転入を1ページに、転出を2ページにまとめています。なお、本

	市資料は取扱注意となっていますので、持ち帰り不可とさせていただきます。 次に資料 1 をご覧ください。 10 ページの阪南市の転出入の自治体間の状況の資料では、20 代から 30 代で東京からの転入転出があることや、特に 20 代から 30 代では大阪市への転出が多いことが分かります。 また、資料 1 の 15 ページから 17 ページでは、4 地区ごとの世帯数や人口推移、人口構成の情報を追加しています。 次に 16 ページの人口推移では、各地区において人口は減少傾向であり、特に尾崎地区・西鳥取地区において減少傾向が強くなっていることが分かります。下荘地区においては平成 27 年度を境に減少傾向に転じています。各地区の区分けは、18 ページに記載しています。 次に、32 ページでは、人口推計のパターン 1 として、国から提供されたシートで 2070 年までの人口推移を、33 ページから 36 ページまでは、地区ごとの人口推計のページを追記いたしました。 38 ページでは、創生委員会での意見を踏まえて、今後、ペルソナを設定するにあたり、年代別ごとに、人口動態等分析に対する仮説として、現状起きていることの仮説と将来どのように影響するか仮説をまとめました。 0 歳から 14 歳は、親に伴う移動が多く、20 歳から 29 歳では、大阪市や堺市、東京都への移動、就職や就学に伴う移動があります。30 歳以上は、近隣自治体間の人口移動が多く、家庭事情、子育て、生活環境のための移動があると考えられます。 39 ページでは、将来的に発生すると考えられるバッドシナリオに対して、今回の総合戦略によるグッドシナリオへの転換について整理しています。子育て世代の減少に伴う若者の人口減少というバッドシナリオに対しては、20 代において、仕事を求めて一旦は都心部へ移住した場合にも、移住後も阪南市とつながりを継続する、市内にしながら遠隔での就業をする、和歌山や近隣自治体での就学・就労に伴い、阪南市に移住するというグッドシナリオが考えられます。
--	--

	30代から40代は大阪市や近隣自治体に転出や、生産年齢人口の減少・産業の担い手が不足、産業の衰退・就労機会の減少というバッドシナリオに対しては、30代から40代においてのUターンや、親との同居・近居のため移住、阪南市の自然環境や子育て環境に共感して移住、市内で子育てしながら就労・産業とのマッチングにより担い手を創出するというグッドシナリオが考えられます。 後期高齢者・独居高齢者の急激な増加や、空き家の増加というバッドシナリオに対しては、同世代・多世代による自律・共助・共創や、空き家の有効活用、高齢者自身も支援される側から支援しあえる人材へ転換するというグッドシナリオが考えられます。 40ページは、今後、人口将来推計の目標値を設定するにあたり、社会増減と自然増減で改善すべき事項を整理しています。 特に、社会増減では、30代を中心とした転入促進・転出抑制として、大阪市等の都心部からのUターンなどの促進や、泉州地域・和歌山に対する転入促進・転出抑制、市の強み・環境に共感する人の転入促進が必要であると考えられます。 また、自然増減では、合計特殊出生率の向上として、25～34歳の母親の出生率の向上や、出産・出産人数の希望を叶えること、結婚の希望を叶えることに取り組むことが必要であると考えられます。 前回の人口ビジョンでは、2045年に、約43,000人を約48,000人へと目標としてきましたが、最新の社人研の情報では、32ページにあるように、約33,000人になることが推計されています。乖離の要因としては、転出超過や合計特殊出生率の低迷などが考えられます。 また、令和4年3月に策定した総合計画においても、将来推計を示しています。 今後、人口将来推計の目標値をどのように設定するかは、現在実施中の統計調査や集計中のアンケートなどの結果も踏まえて検討していきたいと考えています。今回の人口ビジョンでは、42ページにある総合計画の将来人口推計の目標値の$+\alpha$として、今後の尾崎地区のミニ開発なども含めて、どこまでαの部分を持っていけるかが議論になると考えています。
--	---

	41 ページは参考として、近隣自治体がどのように目標値を設定しているかをまとめています。今後の人口ビジョンの将来推計人口をどのくらいまで持っていくかという点について、ご意見をいただけますと幸いです。 ご説明は以上です。
委員長	ただいま、人口ビジョンの説明がありました。 それでは、事務局よりご説明いただいた事項について、ご質問などございましたら、よろしくお願いいたします。
委員長	最も簡単に人口を増やす手段としては、新しい住宅を供給することが考えられます。そのような意味では、グッドシナリオに施策の記載がありますが、どういう場所、住宅に住んでもらうか、イメージが付くようにすることが大事だと思います。 西鳥取地区、尾崎地区の人口減少の原因は、住宅更新が進まず、若者にとって魅力的な住宅が供給できていないことにあると考えられます。既成市街地の住宅更新は簡単に進まないと思いますが、どのように人口を誘導するか考えるのが良いのではないのでしょうか。 尾崎地区のような既成市街地、また、漁村や農村において、どのように住宅供給するか、阪南市であればニュータウンの中でどのように住宅更新を行うかという点については、各土地の特色を念頭に置き、住宅更新・供給のイメージを共有していくことが良いのではないのでしょうか。
(2) 総合戦略策定で検討すべき主要課題（関係人口の創出等）について	
委員長	次に、次第の2. 議事案件、「(2) 総合戦略について」を事務局から説明をお願いします。
事務局	まず、本日配布いたしました、参考資料3の現行総合戦略についてをご覧ください。 前回の委員会で、現行総合戦略の評価についてご意見をいただいたことを踏まえ、現在、評価の作成を行っています。 評価結果は、次回の委員会でご報告したいと考えていますが、本日は、評価するうえでの重要な視点などをご説明します。

	1 ページ目、現行総合戦略では、さまざまな施策に取り組んでいるものの、人口ビジョンでの目標値に対して効果が表れていない状況です。 人口推移では、2060 年に目標としている 44,000 人に対して、最新の国の推計シートでは、23,013 人になると推計されています。2024 年までに、社会増減±0 を目指すことに対しては、転出超過が、基準値であった 2019 年実績が 306 人、2022 年実績が 263 人と減少したものの、2023 年実績が 309 人となっており、2019 年と大きく変わらない状況です。 また、合計特殊出生率については、2040 年までに、国が示す 2.07 まで上昇させることを目標としていましたが、最新では、1.19 と近隣市よりも低い状況です。 次のページでは、評価をする上で重要な視点として、目指すべき姿が不明確・適していない設定になっていないか、ロジックがロジックとして重大な抜け・漏れがないものであるか、施策の企画・実施が効果的にできているかという 3 つの要因を踏まえ、現行総合戦略の評価を行う必要があると考えています。 次のページでは、第 1 期・第 2 期総合戦略の基本目標および施策の体系をまとめています。 第 1 期とは異なり、第 2 期ではスマートシティの推進に関する幅広い分野の取組や、戦略的なプロモーションによる関係人口の創出についての記載をしていますが、大きな方向性、ロジックとしては一定継続的に取り組んできた状況です。 詳細な評価内容は、現在作成中です。次回の委員会でご報告できればと考えています。 次に、資料 2 の将来のあるべき姿・戦略の骨子（初案）をご覧ください。 本日は、あくまでもたたき台として、方向性をお示しいたします。ただき台ですので、今後アンケート結果などの情報に加え、創生委員会のご意見なども踏まえて考えていきたいと思っています。 1 ページは、未来ビジョンやそれを達成するための要素・相関図のたたき台です。総合計画の将来ビジョン「One Action、時代の 1 歩先をゆくまち」
--	--

	を目指し、今後の総合戦略でどのような街を目指すのかは、アンケートなどの情報に加え、創生委員会の皆様のご意見なども踏まえて考えていきたいと思っています。 資料の真ん中、総合戦略の「阪南市のあるべき未来」のビジョンは、「○○なまち」としています。前回、委員長より、ビジョンのキャッチフレーズの検討について、ご意見もありましたので、本日、皆様からご意見をいただきたいと考えています。 2 ページは、基本目標のたたき台です。未来ビジョンを達成するための要素から、6つの基本目標を設定しています。具体的な方向性は、国の方向性や、フォーカスヒアリングをはじめとしたこれまでの分析結果などから、3 から 4 ページにまとめています。こちらもたたき台となります。 3 ページ、基本的な方向性の例として、基本目標 1 「多様な主体との共創・協働を生み出し、まちの機能構築につなげる」では、「既存の地域コミュニティの在り方の見直しやまちの担い手やコーディネーターをまちぐるみで育成する。新たな多様でゆるやかなコミュニティの創造により、行政はそれらの活動を活性化するためのプラットフォームビルダーとしての役割を担う」ことや、「来訪促進や特徴ある多様な主体との共創の取組により、交流人口から関係人口に深化させ、多様なまちづくりの担い手を生み出す」こと、「シビックプライドを醸成し、市民自らが愛着をもってまちづくりに取り組めるような仕掛けをつくる」こと、「市民が自律できるような支援を行政が行い、協働・共創へとつなげる仕組みをつくる」ことなどを例示としてあげています。 基本目標 2 「結婚・出産の希望を叶え、ワークライフバランスを保ち、ゆとりある子育て環境をつくる」では、「カジュアルな出会いの場を提供・演出し、結婚のきっかけづくりを行う」ことや「阪南市への U ターン等の移住のきっかけづくりを行う」こと、「子どもを一人・複数人を産むことへの不安や出産前後の不安を市民自らの実体験をもとにした知識の提供や行政と市民協働によるサポートにより軽減させる仕組みを整える」こと、「子育てと両立できるような地域での就労機会や就労のためのリスキリング機会の提供を行う」ことなどを例示としてあげています。 基本目標 3 「関わりたくなる・訪れたくなる・住みたくなる魅力をつくり、
--	---

	国内外の交流・関係人口を生み出す」では、「自然資源や食資源を活用した観光資源の磨き上げやブランド化・観光パッケージ造成や効果的なプロモーションにより観光客や視察者を呼び込み、交流人口を創出し、関係人口創出や移住・定住へつなげる」ことや、「市民や交流・関係人口と協働で里山里海等の自然環境を保全・維持したり、豊かな食資源を認知してもらうことで、阪南ファンを創出し阪南ファンによる発信・プロモーションにつなげる。市民の阪南市ならではのリアルな暮らしぶりを見える化し、プロモーションを行う」こと、「移住者がまちの人とふれあい、文化を知る機会を作るとともに、市民にとってもまちの魅力の再発見するきっかけづくりを行う」ことなどを例示としてあげています。 次のページ、基本目標4「産業を創出・発展させ地域雇用とつなげる」では、「食ブランドの確立や販路開拓支援により産業や消費を活性化することや」「地域消費を促進することで地域経済の循環を高める」こと、「地域産業のスポット的な雇用ニーズを把握し求人をつなげる仕組みを構築すること」「事業者の創業支援・誘致やコミュニティビジネスの創出支援により新産業の創出や新たなまちづくりの担い手確保へつなげる」ことなどを例示としてあげています。 基本目標5「安全・安心・健康にそれぞれが生涯活躍できる仕組みをつくる」では、「データを活かした最適な健康指導や無関心層への効果的な啓発を行うことで市民それぞれが健幸な状態をめざし活躍し続けられる状態をつくとともに、社会保障費の抑制にもつなげる」こと、「デジタル人材の育成や社会で自身の得意を伸ばし活躍できる人材を育成する」ことなどを例示としてあげています。 基本目標6「世情変化に対応してまちや生活をトランスフォームする」では、「移動ニーズ・目的を踏まえた持続可能な交通ネットワークを再構築することや、「空き家・空き店舗・遊休農地などを老朽化や管理不全に陥る前にまちのストックとして有効活用できるための仕組みを整える。」こと、「産官学民の共創により市の強みである里海・里山をはじめとして自然環境を保全し、環境に配慮した事業実施や生活へのトランスフォーメーションを促進する」ことなどを例示としてあげています。 次に6ページ、基本目標を決定するためのプロセスについてです。 現在は調査分析の段階ですので、今後、統計データに加え、アンケート結果
--	--

	なども踏まえて、とりまとめていきます。たたき台となりますが、本日は、先ほどのお示ししたビジョンのキャッチフレーズと併せて、基本目標、基本的な方向性の例示についてご意見を頂けると幸いです。 次に、参考１ フォーカスヒアリングについては、支援事業者から説明いたします。
支援事業者	それではフォーカスヒアリングの実施結果について、ご報告させていただきます。 2 ページに実施概要まとめています。子育て支援団体等にご協力いただき、3 回に分けて実施しました。特に 3 回目については、遠方の出身の方もいらっしゃる、移住のきっかけの違いや市の強み・弱みの感じ方の違いなどを見るために、出身地で班分けをしてヒアリングを実施しました。 4 ページから 6 ページに実施結果のまとめを掲載しています。 移住のきっかけとしては、親との同居・近居や、実家や夫婦の勤務地の中間地で選んだという方が多くいらっしゃいました。その中でも条件面で、地代が安く広い家に住めることや特急が停車すること、自然環境がよく適度に過密でないことが意見としてありました。また出身地ごとの違いという点では、和歌山県などの出身であった方などからは、出身地が不便で阪南市の方が利便性が高いという意見もありました。また、今回の参加者で遠方から移住された方は、パートナーの実家に近い、里山・里海の距離が近く自然を感じられることが意見としてありました。 次に、実際に住んでみての実感としては、強み弱みで似たような意見があがっています。自然を感じられるといった強みはあるものの、整備があまりされていないことや、公園が多いものの小さい子どもと遊べるような遊具の整備や駐車場、室内遊技場が無いことなどが弱みとしてあがっていました。強みとして感じつつも、対策が行き届いておらず過ごしにくいと感じているとの意見もありました。 次に、理想の暮らしとしては、尾崎駅周辺など賑わいのあるエリアとすぐに自然にアクセスして安らげるまちであってほしいという意見や、同世代のコミュニティや地域内で助け合え、移住者もコミュニティに参加しやすくあってほしいという意見がありました。また、親と同居・近居の方も多いため、

	親が引きこもってしまうと気を使う・お世話をしないといけないため、出かけてつながりを持ち、充実して暮らせると介護をする側も助かるという意見がありました。子育て世代にはフォーカスしつつも、親も高齢者であるため、子育て世代に限定しないアプローチも必要になってくると考えています。 5 ページでは、結婚・出産・子育て・就労という各フェーズのニーズをまとめています。フェーズの順はここにあげたものには限りませんが、今回の参加者については結婚・出産・子育て・就労の順の方が多くいました。結婚については、お金がかかったり、夫婦仲を保つことが大変であったりと、世間のイメージが悪く、阪南市では結婚～出産～子育てに希望が持てるように示していくことが重要であるとの意見が多くありました。阪南市ならではの良い子育てイメージを訴求していくのが良いのではないかという意見が多くあがりました。また、出会いの機会が少ないため、市内で街コンよりもさらにカジュアルな出会いの場、例えば地場産品を使った食事会や趣味をテーマにしたイベントを実施するのがいいのではないかという意見が多くありました。 出産については、母親の体力面・精神面の不安が大きく、特に複数出産となると高齢出産も増えているため、そもそも体力的にしんどいという意見が多くありました。少しでも体力的・精神的不安を解消できると、複数出産を考えられるかもしれないというご意見も頂きました。 続いて子育てについては、金銭面の助成の話題も出ましたが、子どもと保護者がホッと一息ついて遊べる環境や、子どもを預かったり家事を助け合える仕掛けなどを、地域ぐるみでできればという意見が多くありました。 最後に就労については、休職や仕事を辞めることはキャリア形成上の悩みであり、何時まで子どもを預けられるかなどの条件を前提に求人を探すとの声がありました。しかし、市内で条件に当てはまる求人がないために就労できないとの声もありました。子育てしながらの隙間時間における就労や、子育て中はスキルアップに励み、ある程度子どもが大きくなったタイミングでフルタイムの仕事につけるなどが理想とのご意見を頂きました。 居住地検討・移住については、結婚する前から出産後までが意見として多かったため、シティプロモーションとしては本フェーズで実施するべきであると考えられます。出産から就労については、定住施策にあてはまると考えら
--	---

	れます。 続いて6ページには、まちの情報の取得方法についての意見をまとめています。 欲しい情報として、行政の発信している子育ての手続き関係の情報で困っているとの話はあまり無く、子どもと一緒にいける遊び場や飲食店、イベント、入園前の幼稚園・保育園の口コミ情報などの生活に密着したものが求められており、行政の発信している情報と実際に欲しい情報に乖離が見られます。子育てアプリなどでは手続き関係や行政関連の情報発信がされていますが、市民にとっては行政に限らず民間が実施している情報でも欲しいとの意見がありました。行政の情報発信には公平性の観点から制限がありますが、それに対して有効な情報発信・取得手段は口コミであるのご意見を頂きました。リアルとバーチャル（SNS など）の両方から、いかにコミュニティを生み出して市民自身に発信してもらい、市民がまちの情報を取得できるかということ、そのような取組の実施が重要であるという意見もありました。 また移住者にとってはコミュニティに入る機会が少ないため、参入障壁を下げつつ、移住者が気づいた市の魅力を発信してもらえそうな仕掛けを作ってもいいのではという意見もありました。 以降は参考情報として、詳細な意見を掲載しています。 ご説明は以上です。
委員長	ただいま、総合戦略の説明がありました。 それでは、ただ今、事務局よりご説明いただいた事項について、各分野に関わらず多くの委員のご質問、ご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。
委員	昔は箱の浦に駅を作るという話であったと記憶していますが、総合戦略の初案には、箱の浦地区にあるせんなん里海公園の話題が出ていないと思います。駅を作れば周辺地域への集客に繋がると考えられるため、駅を作るのはいかがでしょうか。箱の浦地区は空き家も多いと考えられるため、南海電鉄に入ってもらうのがよいと思います。総合戦略の初案では、せんなん里海公園の価値を考えられていないのではないのでしょうか。
事務局	現時点では駅を作ることまで検討できていませんが、海岸沿いや山なども含め、せんなん里海公園は阪南市の魅力であると思います。そのため、街の魅力発信を考える中で、引き続き検討していきたいと思います。

委員長	具体的な施策内容が出てくる段階で、どのように総合戦略の内容に落とし込めるか、検討していただければ良いと思います。駅の設置は南海電鉄との協力、大阪府の所有物であるせんなん里海公園は、大阪府との連携も必要になると思います。
委員	私は奈良県の大学に通っていますが、奈良県王子町の事例では、口コミを通じた生活を知りたいという声に対し、「おうじ・まちの宣伝隊」という王子町と町民がタイアップで実施している活動があります。王子町のことを町民目線でブログに掲載するなどしているため、阪南市においても実施できると良いのではないのでしょうか。
委員長	おそらく奈良県王子町の活動は、奈良県生駒市で始めた「いこまち宣伝部」から持ってきた活動かと思いますが、市民が市民に向けて発信するという活動は各地で出てきています。大阪府茨木市では市民と市役所が「#エールいばらき」というハッシュタグを共通で使用し、情報発信する仕掛けもあります。阪南市においても、市役所に限らず市民ぐるみでどのように発信できるかという点について、検討していただければと思います。
委員	ハッシュタグの話は、阪南市においても民間や市民が「#阪南市」で実施していると思います。 また総合戦略の初案は、目指すべき姿が明確ではないと思います。総合計画においては「時代の1歩先をゆくまち」が最大のメインテーマですが、他にもう1つ普遍的な目標を設け、その目標に向かって各政策があるという体系にするのが良いのではないのでしょうか。 最近では「ありのままの自分」が大きなテーマになってきていると思います。様々な講座においても、子どもも親もありのままでいられるようにということを先生方が共通して話されています。医療、福祉においてもテーマになっていると思います。 また今回の創生委員会はキャッチフレーズを考えるとのことでしたので、私としては、「自分が自分自身、自分でいられるまち」、「ありのままの自分で生きられる、自分らしく生きられるまち」、「お金が無くても、健康でなくても、頼れる家族がいなくても、自分らしく生きられるまち」、子ども関連では「豊かな子ども時代を、豊かな子育て時代を過ごせるまち」というキャッチフレーズを考えました。自身の経験から、子育てする期間は限られており、かつ子どもが大きくなった際には、当時の子育てに関するフォロー環境や子育てに関する知識が不足していたことを後悔することが多いと感じています。そのため、親が豊かな子育て時代を過ごせることは大切なテーマである

	と思います。 また基本目標に関しては、目標が個別ではなく、重なり合っている印象を受けます。基本目標2の例示で「子どもを起点に親が自主的に共助やまちづくりに関わる仕組みを構築する」とありますが、現在まで阪南市の公立幼稚園では、親自身がサークル活動やお母さん先生として幼稚園に関わることで、親同士のコミュニティを作ってきました。公立幼稚園におけるサークル活動は、親が子どもに音楽発表や劇を行い、自身の子どもだけでなく子どもに奉仕することを通して、奉仕する喜びを学べる場になっています。そしてその後、卒園した親が小学校のPTAや子ども会、NPOに入り、地域で活動する人に自然となっていると思います。活動する市民が育つことは、基本目標5の例示に「自身の特技や関心を活かしてまちを舞台にチャレンジし自己実現できるよう市民活動への参加のきっかけづくりに取り組む」とあるように、市民活動へ参加するきっかけづくりになると思います。しかし、特技を持っている人がおり、市がその特技を持った人を探している場合には、それらの人々を繋ぐ役割を担う人が必要です。繋ぐ役割を担う人は、地域に知り合いがいる人、つまり地域活動を行っている人だと思いますが、これらの人は先に述べたような公立幼稚園から卒園した親であると考えます。先ほど委員長の話に住宅更新の話がありましたが、私の住む鳥取中地区では、住人のいない、古くて大きな家を民間の住宅会社に売却し、新たな家を建てることで若い親子が移住するという事例があります。そのような移住に関する情報も、いち早く地域の人々が聞き、斡旋などできると良いのではないのでしょうか。
委員長	奈良県生駒市では地方創生に絡め、「グッドサイクル生駒」というホームページを作成し、「生駒の住まい」というコーナーを設けています。コーナーの中では、どのような場所でどのような暮らしをしているか、暮らしを紹介しています。一般的に住宅供給の場合には物件を紹介しますが、物件紹介ではなく、その物件における暮らしを紹介するほうが、インパクトが大きいのではないのでしょうか。住宅供給におけるアピール方法についても、工夫があれば訴求力が大きくなると思います。
副委員長	総合戦略において、関係人口を含めた人口確保のために実施できる施策は、ソフト面が多いと思います。そのため総合戦略においても、ソフト面の施策に対する進捗管理を含めた指標が多くなると思います。一方、阪南市が総合戦略にて6つの基本目標に対しあげている施策は、阪南市に関する固有名詞があまり出てこないため、他市との差がないように感じます。阪南市にお

	ける住まい方や子育て、高齢になった際にも居住地として選択されることに 対する方向性を示されていますが、他市との差別化は難しい点であると思 います。例えば、他市において保育所の預かり時間を 20 時まで延長するこ とで、大阪府内の預かり時間が基本 18 時、19 時であることと差をつけ、子育 て世代の人口を確保しようとした事例がありますが、すぐに他市が模倣し、 差が無くなってしまいました。阪南市においては、海や山などの自然がある という環境面も、居住地域を選択する条件として多いのではないかと思います。 また海や公園の整備、遊休地や休耕田の活用など、街中だけでなく海や 山まで含めた魅力付けに関する施策を希望している人も若干名いると思わ れます。そのため、次期の総合戦略に結び付く課題として、インフラ整備・ 保全の話にも触れておくのはいかがでしょうか。 また、総合戦略の初案では大きな方向性が示されていますが、事業計画まで 落とせるような具体的な施策まで書くのか、施策体系のみというように方向 性のみ書くのか、どのようにされるのでしょうか。
事務局	現在は方向性の話を中心にしていますが、人口ビジョンの数字を見ていく際 に具体的な施策を決めておかなければ、施策が人口に与える影響を確認する ことが難しいと思います。時間や予算の制限があるため、具体的な施策まで 書く部分と方向性のみ示す部分があると思いますが、方向性のみ示す部分に 関しては、追って具体的な施策を検討していけると良いと思います。
委員長	副委員長の話の中でも「阪南ならではの」という言葉がありましたが、総合 戦略の初案の基本目標と具体例からは、阪南らしさが伝わらないと思いま す。今回は 3 期目の総合戦略で、1、2 期についても他市と比較し頑張っ ていたと思いますが、成果が出ていないと思います。そのため、1、2 期の成 果を見て、成果の出た施策に集中し、内容を踏襲するのが良いのではないで しょうか。アピール、PR の仕方で訴求力は変わると思います。阪南市では 海洋教育やブルーカーボンなど、日本においても先進的な取組を実施してい ると思いますが、阪南市のホームページからは見えません。大阪府茨木市で は、市のホームページのトップページに「茨木三昧」という地域の魅力発信 をするページに飛べます。奈良県生駒市も市のホームページのトップページ から「good cycle ikoma」に飛べます。そのため、阪南市もホームページの 作り方に工夫が必要だと思います。また、キャッチフレーズの付け方につい ても、例えば千葉県鴨山市の大山千枚田という棚田は「東京に一番近い棚田」 というキャッチフレーズがあります。大阪府岸和田市は、関西国際空港から すぐ行ける城下町であるため、「世界に一番近い城下町」というキャッチフ レーズがあります。他にも地方創生に力を入れている北海道東川町は「水道 普及率 0%」というキャッチフレーズがあります。水道がないということで

	見た人は驚くと思いますが、ホームページをよく見ると、水道水は必要なくあちこちの地下水や湧き水が飲める、つまり自然がきれいであるという内容を導いています。阪南市についても、海洋教育やブルーカーボンに関連させた、世の中をあっと言わせられるようなキャッチフレーズを作り、ホームページから分かるようにすることで訴求力が増すと思います。実施していることがあるならば、PR などの見せ方を考えれば訴求力が増すと思います。多くの施策を書くのではなく、目玉となる施策をいくつか作るだけでも良いのではないのでしょうか。
委員	阪南市において海洋教育を全小学校で実施しているが、その事実を知っている人自体が少ないかもしれません。公立幼稚園から磯遊び、小学校 6 年生までは海洋教育を実施し、その延長線で海の学校があることは、阪南市についての大きなアピールになるのではないのでしょうか。子ども子育て会議においては、入園児数が少ない割に、公立幼稚園の数が多いことが問題になっています。副委員長の話にもあったように、例えば保育時間が 20 時までであることなど、目玉となるものがあればとの声もありますが、公立幼稚園に特色があるにも関わらずニーズが少なくなっている原因には、働くお母さんが増えている現状があるのではないのでしょうか。公立幼稚園は市民を育てる役割を担い、幼児教育にも力を入れています、魅力の発信力が足りていません。また、延長保育時間の短さや長期休暇に自宅で子どもを見る必要があること、お弁当を持たせる必要があることなどがネックとなり、働くお母さんが公立幼稚園に子どもを入園させられず、園児数が減っている現状があります。それらのネックを無くすことができれば、幼児教育を大事にしたい人たちが公立幼稚園に子どもを入園させ、幼児教育を大切にしたい保育士が集まることで、阪南市全体においてコミュニティや地域で活動する人を自然に育てる場を作ることができます。そのため公立幼稚園は大切だと思います。子ども子育て会議や、子育て関係の政策の場だけでは、公立幼稚園の数や園児の人数から、公立幼稚園を無くす方向に話が進んでいます。そのため、阪南市を将来的に考えていくのであれば、公立幼稚園が果たしてきた役割、無くした際のデメリットを考え、方向性を決めていく必要があると思います。
委員長	市役所も、人財や資金が潤沢であれば、延長保育などの様々な施策ができると思います。ですが限界があるならば、代替のアイデアを出すことも 1 つの方法であると思います。兵庫県川西市清和台のニュータウンでは、清和台小学校の児童 1 人ずつに自治会員を割り当て、自治会員が下校時間に子どもを迎えに行き、自宅に保護者がいれば送り届け、いなければ自治会員の自宅で一時的に預かるというユニークな取組があります。夏休みには自治会員の自宅に子どもが泊まりに行き関係を深めるなど、自治会と小学校が連携し

	て取組を実施しています。阪南市においても、保育園や幼稚園、小学校で子どもを預かるだけでなく、近所の人が預かるような仕掛けを作ることもユニークなのではないでしょうか。
委員	阪南市は活発に活動していますが、取組の実施止まりになっているため、見せ方や知らせ方などのアピールを工夫することが大事だと思います。委員の話にあったように、日本では阪南市だけが全学校で海洋教育を実施していることや、少年院の子どもがボランティア活動していること、子どもが福祉委員を担当していることなど、阪南市には全国的に見てもユニークな取組があります。阪南市に来るとこれだけ子どもが豊かに育つということを伝えたい良いのではないのでしょうか。子育てするならば阪南市と積極的にアピールする戦略が必要だと思います。総合戦略についても成果が出ていないのは、情報を届けるべきところに届けられていないからではないのでしょうか。
委員	阪南市において人口を増やしていく、減らさないようにする中で、情報を届けるべき相手としてはどこにターゲットを置くのでしょうか。近隣の市町なのか、大阪市内や東京などの大都市圏なのか、外国人なのかなど、ターゲットにより訴求する内容が変わると思います。例えば、海のメリットを伝えるとしても、和歌山市内の人には和歌山市に海があるため響かず、一方で都会の人には海が近くにならないため響くなど、ターゲットにより響く内容が変わると思います。全方位にターゲットを設定すると費用がかかるため、今後のプロモーションや計画を練っていく際に、重点的に訴求するターゲットを念頭に置いておく必要があるのではないのでしょうか。
事務局	フォーカスヒアリングなど生の声を聴く中で、ターゲットとなるのは泉州地域外から阪南市に来る人と、阪南市を含む泉州地域内で移動し、定住志向のある人の2種類であると思います。後者の定住志向のある人については、アピール方法は多くありますが、阪南市民に対し希望を叶えるような施策を打つのが良いと思います。一方、泉州地域外から阪南市に来る人については、何か目的を持って阪南市を訪れると考えられるため、阪南市と合う人でなければ阪南市を居住地として選択しないと思います。そのため阪南市側から、阪南市がどのような街であるか、どのような人と阪南市の中で一緒にやっていきたいかを発信できれば良いのではと思います。
委員長	ターゲットに応じて、呼びかけ方や呼びかける内容が異なると思います。そのため、呼びかけ方、内容を1つに絞るのではなく、ターゲットのタイプによって工夫していただけたらと思います。

副委員長	大和川より南の地域は関西空港が近いため、海外事業を含めた事業主が産業用地を探しているとの話が多いと聞いています。それに関連して、法人税収を上げることや、事業主がその地で居住できるような住宅供給をするなど、サービスの施策ではなく企業向けの土地誘致といったハード面の施策を打つことで、人口確保を行なうことも考えられるのではないのでしょうか。阪南市では、市街化調整区域における用地の確保や、海側の地域の面開発を行う可能性があるため、関連して様々な企業が出てくる可能性があります。そのため、総合計画に関する内容とも併せ、人口確保の手立てを考える必要があると思います。用地自体や用地確保の予定が無く、戦略に落せない難しさ、また中間見直しなどの中で計画変更になる可能性もあるかと思いますが、ソフト面に着目している中で、ハード面に関する対応を考えて他市に乗り遅れないようにする必要があると思います。
委員	キャッチフレーズについて、私は「ある意味ブルーオーシャンな街、阪南」というキャッチフレーズを考えました。阪南市は目立った特徴が乏しいという話から、反対に企業が入って活躍すれば有名になれることや、阪南市の青い海、海洋教育や里海、里山の話も絡め、このようなキャッチフレーズも考えられるのではないのでしょうか。
委員長	キャッチフレーズは、内容を詰めてから集約して考える方法と、キャッチフレーズを決めた後に内容を作る方法の2通りがあると思います。言葉遣いの好みもあるため、本会議はキャッチフレーズのアイデア出しという位置づけとし、今後の段階で検討していくのが良いと思います。
委員	阪南市には海と里山がありますが、大阪府下で海が近いのは阪南市だけであると思います。また電車から海が見えるのは、鳥取地区と箱作間の区間だけです。そのため、海をメインに魅力発信してほしいと思います。
委員長	海を打ち出す場合には、里山の方に所在する山中溪の方にもご納得いただく必要があると思います。 日本には「あを」という言葉がありますが、元来は緑という言葉が無かったため、緑という意味も持っています。そのため、「あを」という言葉は緑という意味と海の青という意味のどちらも含むという形で記載するのも良いと思います。そのような記載表現についても工夫ができるのではないのでしょうか。

委員	キャッチコピーの話から、空港が近くにあるという大きい特色があるにも関わらず、空港を身近に感じてもらえていないという現状があると思います。「ブルースカイ」という言葉もありますので、そのようなイメージも青ということで、内容に含めていただけたらと思います。
委員長	委員の話に関西空港の話がありましたが、関西空港は泉佐野市にあります。来訪者は空港から北上してしまうと考えられますので、南の方にも話を繋げていただけると、より身近に感じてもらえるのではと期待しております。 つい先日、奈良県生駒市にて「地域共生社会推進全国サミット」が開催され、私も参加しました。生駒市の教育長が教育大綱の話をされましたが、生駒市の教育大綱には「Live my own way」との記載があります。これは生駒市のキャッチコピーを英語に直したのですが、委員もお話しされたように「自分らしく生きようよ」という言葉です。また教育大綱の表紙をめくると、「生駒市の教育は変わります」と宣言されており、とてもインパクトがあります。生駒市の教育長は元々小学校の校長としてユニークな活動をされていた方ですが、この言葉は教育長とユニークな市民の方との間で議論されながら決まった言葉です。例えば現在は、生駒市の小中学校において、不登校気味の子どもたちが教室に戻らず自由に使えるスペースの設置が始まっています。とりあえず学校に来てもらい、1日過ごせる居場所を見つけてもらえるようにする取組です。既に数校において設置が完了していますが、とてもユニークな取組ではないでしょうか。そのようなアピールを阪南市においてもできないでしょうか。阪南市の教育大綱では「誰ひとり取り残さず、誰もが輝くことができる、協働・協創の人、街づくり」と真面目なキャッチフレーズの記載がありますが、これは泉南市に置き換えた場合にも使えないでしょうか。真面目であるがゆえに、キャッチフレーズのインパクトが弱くなっているのではないのでしょうか。そのため、言葉遣いも内容も、創生という意味で伝わるように、尖ったものを作るのはいかがでしょうか。先ほど冗談で、海ばかり魅力として打ち出すならば、山中溪の方はどう思うでしょうかと述べたように、尖ると誰かが不満や文句を言います。しかし、それらの不満や文句に合わせると、尖ったものが段々と丸まり面白くなります。そのため、少々不満は残ったとしても、これで一旦行こうというような3期目の総合戦略になればと思います。次回以降においても、事務局の方に色々な意見を提供していただければ、私たち委員も議論に関わることができるのではと期待しております 他に意見はございませんでしょうか。

	私としても「阪南ならではの」ということは良いと思いますので、ぜひ内容についても、阪南ならではのものが随所に見られるような総合戦略と一緒に考えていけたらと思います。
(3) 意見交換	
委員長	それでは、次に、議事案件「(3) 意見交換」として、委員の皆さまより、情報提供などがあれば、お願いいたします。 先ほどの話に加え、市民活動も重要な魅力の1つですので、柱の一本としていただけたらと思います。私は茨木市民ですので、先ほどから茨木市の例を出しておりますが、茨木市では入れ替わり立ち代わり誰かがどこかでイベントをされています。茨木市から兵庫県川西市に引っ越しされた方と話をしていると、茨木市の良さは誰かがどこかでイベントをしていたことだと話されていました。茨木市は、市役所が関係せず、市民が自らイベントを開催しているようなまちです。このように市民活動も魅力の1つですし、委員の話にもありましたように、「自分らしく生きる」という点でも、思い描いた活動が実現できることもとても重要です。そのような内容も含めていただければと思います。
(4) その他	
委員長	その他として、事務局からお知らせがあればよろしくお願いします。
事務局	次回は11月12日火曜日に阪南市役所3階の全員協議会室で開催予定です。本日、第2回目の会議録を配布していますので、内容をご確認いただき、修正点があれば今月中に運営事務局へご連絡ください。皆様に確認後、市ウェブサイトにて公表いたします。事務局からは以上です。本日はありがとうございました。
以上	